

シンポジウム&ワークショップ「恐竜の世界をよみがえらせる」

‘恐竜’づくしの2日間～地球史を読み解く科学の世界を身近に感じる貴重な機会～

1日目：10月22日（土）

10月22日、23日、恐竜の復元をテーマにしたシンポジウム&ワークショップ「恐竜の世界をよみがえらせる」を開催しました。22日は篠山市・四季の森生涯学習センターで、シンポジウムのほか、「発掘体験会」（篠山市教育委員会）、「恐竜復元画を描いてみよう」（大阪市立大学恐竜愛好会 ジェラシックパー君）、「チョコレートを使った化石レプリカ作り」（篠山産業高校りぼん工房）といった体験型イベントが会場を盛り上げました。

シンポジウムの基調講演では、まず対比地孝亘氏（国立科学博物館）が「恐竜の生物学～軟組織の復元から成長と進化まで～」と題して、化石をもとに筋肉を復元する際の基本的な考え方や、恐竜の成長と進化について解説し、CTスキャンを用いた脳の復元に関する最新の研究成果などが紹介されました。

対比地氏の研究で使われたタルボサウルスの子どもの骨格標本（林原自然博物館所蔵）も会場に展示され、来場者の注目を集めました。つぎに新谷明子氏（アメリカフィールド博物館）の講演「プレパレーターの仕事」では、化石研究の最前線を支えるプレパレーター（=化石のクリーニング）の重要性がとてもわかりやすく解説されました。

ワークショップ「恐竜復元模型をつくろう」は、徳川広和氏（恐竜復元作家、（株）ACTOW）の恐竜マペットから始まりました。事前に応募し抽選で選ばれた恐竜好きの16組24名は、あつという間に虜になり「徳川ワールド」に引き込まれて行きました。素材として選ばれたティラノサウルスに、徳川さんの指導のもと粘土で肉付けを行ってきました。骨格標本だったティラノサウルスが見る見るうちに復元されて行きました。

最後は自分が復元した模型を持ち、憧れの徳川さんと記念撮影したり、本にサインをもらったりと思い出深い一日となったと思います。

また同時に開催されたワークショップ「恐竜の復元画を描いてみよう」は、前日の四季の森生涯学習センターに引き続いている開催となりましたが、大阪市立大学恐竜愛好会「ジェラシックパー君」のメンバーによるエネルギー豊かなイベントとなりました。恐竜好きの子どもたちに圧倒されながらも、子どもたちと同じ目標で丁寧に復元画を描いていました。恐竜好きの学生の集まりだったジェラシックパー君ですが、7年前に徳川広和さんとの出会いを契機にワークショップや自主学習会を活発にする活動的なグループに変貌したと3代目会長大野さんに伺いました。

佐藤裕司（恐竜・化石タスクフォース）



ロビーの様子

岩槻邦男館長

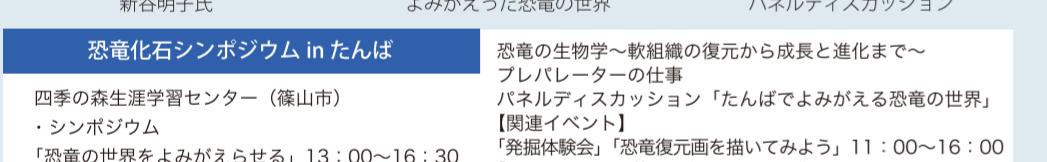
対比地孝亘氏



新谷明子氏

よみがえった恐竜の世界

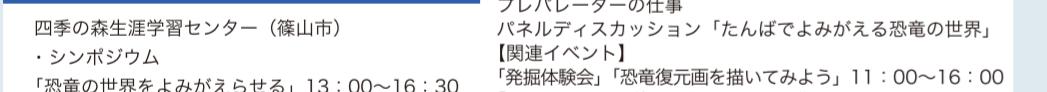
バネルディスカッション



恐竜化石シンポジウム in なんば

恐竜の生物学～軟組織の復元から成長と進化まで～

プレパレーターの仕事

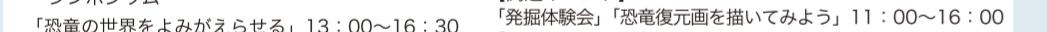


四季の森生涯学習センター（篠山市）

・シンポジウム

「恐竜の世界をよみがえらせる」13:00~16:30

「恐竜復元模型をつくろう」11:00~16:00



「チョコレートを使った化石レプリカ作り」11:00~13:00

ひとはくに恐竜フィギュアがやってきた！恐竜復元作家・徳川広和の世界

シンポジウム&ワークショップ「恐竜の世界をよみがえらせる」の一環として、10月8日（土）から23日（日）の16日間、恐竜復元作家徳川広和さんの“作品”34体他、復元の工程に関する展示がひとはくサロンで行われました。

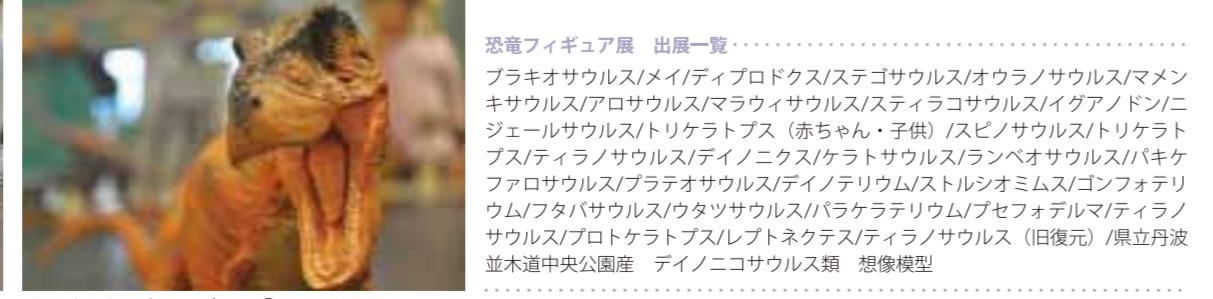
徳川さんは、模型と恐竜が好きで、3歳頃よりすでに粘土で恐竜を作っていたそうです。高校生頃より本格的に模型作りに打ち込み、大学は恐竜や芸術と直接関係ない分野に進みました。しかし、創作活動は継続し、この頃からすでに博物館等からの製作依頼があったそうです。平成23年4月に古生物をテーマとした商品の製作・販売を行う株式会社「ACTOW」を設立し、自らCEOとして商品製作や、研究とアートで人をつなぐワークショップ、講演会等を行い活躍されています。当館での展示が実現したのも、学会で当館研究員との出会いに始まっています。

この展示の他に、10月22日にはバネルディスカッションを、23日には「恐竜復元模型をつくろう」と題したワークショップを行っていただきました。また、22日には篠山市で実施されたフォーラム会場に、丹波の地域から産出した恐竜化石に関する恐竜フィギュアを展示していただきました。



徳川広和氏

恐竜フィギュア展の様子



西岡敬三（恐竜・化石タスクフォース）

ひとはくフェスティバル2011を開催しました！

2011年11月6日（日）にひとはくフェスティバル2011を開催しました。時折雨が降るあいにくの天候でしたが、約2万3千人が来場しました。今年のテーマは「山陰海岸ジオパーク」。ミュージアムワールドには37団体、まんぶく屋台には10団体が出展し、フェスティバル参加者の好奇心と胃袋を満たしました！ホロンピアホールで開催されたステージイベントでは、有馬高等学校や三田祥雲館高等学校の吹奏楽部による演奏とパフォーマンス、ゆるキャラたち（豊岡市の玄さん・鳥取県のトリピー・京丹後のコッペちゃんなど）の登場で、ホール会場は大いに盛り上がりました。第2回いきものかわらん表彰式では、一人ずつ表彰状が手渡され、全員笑顔で記念撮影を行いました。「山陰海岸ジオパーク〇×クイズ」では、クイズを通して山陰海岸ジオパークのことを学びました。来年もみなさまにお会いできることを楽しんでいます！

北村俊平（生涯学習推進室）



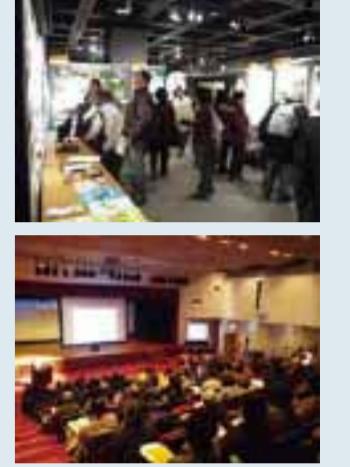
第7回共生のひろばを開催します！

ひとはくの恒例行事となりました市民による自然・環境・文化についての研究や活動の発表会「共生のひろば」を、今年度も2012年2月11日（土・祝）に開催します。昨年度は、52件の発表があり、271名の発表者と聴講者が、自分たちの活動やプロ顔負けの研究内容について紹介し、活発な意見交換を行いました。詳細は、第6回共生のひろば報告書をご覧ください（当館HPのトップページ→出版物→単行本からご覧になれます）。共生のひろばで市民のみなさんの地域に対する熱気にふれてみませんか？今年度も多数の発表を予定しています。ぜひ聴講にお越しください！

北村俊平（生涯学習推進室）

日時：2012年2月11日（土・祝）10:00～17:00（予定）
場所：兵庫県立人と自然の博物館（口頭発表：ホロンピアホール、ポスター・作品展示「共生のひろば展」4月8日（日）まで：本館2F企画展示室およびその周辺）

聴講の申し込み・問い合わせ：「共生のひろば聴講希望」と明記の上、氏名・住所・TEL・FAX・E-mailを記入の上、下記まで、ハガキ・FAXまたはE-mailでお申し込みください（締切は2012年1月31日です）。聴講は無料、観覧料のみ必要です。
〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目
兵庫県立人と自然の博物館
生涯学習推進室 共生のひろば担当
電話：079-559-2003 FAX：079-559-2033



第2回ひとはく「いきものかわらん」実施報告

昨年の初めての試みに統いて、第2回ひとはく「いきものかわらん」をかけてじっくりデータを取った作品に優れたものが多くありました。募集期間は2011年8月20日～9月10日でした。さらに気付いたことは、小学生の作品にきらりと光るものまで、今年は昨年の約8割の661点が集まりました。昨年はまつたたくの手探り状態で818点も集まつたので、展示に漕ぎ切けるのが精一杯で、作品の質への配慮はできませんでした。今年は少し余裕の出たところで、研究者と関係のある小・中・高校の先生への依頼も丁寧になり、先生方もじっくりと作品を仕上げる指導をされたことがうかがえ、力作ぞろいです。受賞作は下記一覧の41点で、11月6日（日）のひとはくフェスティバルで表彰されました。

大谷 剛（生涯学習推進室）

野外で継続的に観察するよりも、室内での観察が多くなるせいでしょうか、飼っている犬など、人が育種した動物を題材にしたもののが目立ったのも特徴かもしれません。

小学校低学年の応募者の作品も含め、絵や文字が、読む人に分かれやすいように書きちり書かれています。かわら版の性格をしっかりと捉え、自分のための記録でなく、成果をより多くの人と共有したいという意図のあらわれかとたいへん好感を持ちました。

岩槻邦男（館長）

受賞者一覧(受付番号順)

○館長賞3点
高尾海星(瀬戸内小6)、山本春菜(安室中1)、鳥飼遼南(長尾小4)
○三田記者クラブ5点
松田駿平・川口わかさ・吉村匠生(広野小5)、伊原木空也(道場小2)、菅萌子(武庫庄小4)、後藤美佳(柳原園中3)、吉村真由(県大附中2)
○研究員賞33点
浜中京介(篠山鳴高2)、原美紗穂(県大附高2)、遠山拓弥(芦屋国際中4)、室谷泰智(なぎさ小5)、田中義将(広野小4)、長谷川千絵(藤江小6)、

藤本悠人(猪名川小4)、堀口拓矢(武庫庄小6)、久保彩映美(鳥羽小3)、井上篤(三河小3)、内田隼人(魚崎小4)、野世溪実友(花園小3)、山田奈央(同)、川東拓就(塙屋中3)、大渕修弥(藤原台小3)、大渕潤華(同小5)、神野文菜(けやき台小4)、宮崎和子(柳原園中3)、山本健治(同中1)、藤山垂久斗(有野小2)、藤原礼大(福崎高1)、宮川優汰(野小4)、八木佑奈(武庫庄小4)、西村優作(同)、川東千夏(星陵高2)、梶本翔太(荒井小3)、藤本善乃(同)、岡垂依香(県大附中3)、梅宮晴香(同)、内田菜陽(長尾小4)、平野里緒(同)、多田円香(県大附中2)、若山太一(同)

館長賞の選考を終えて

2回目となる今年の作品は、さすがに整ってきて粒ぞろいででした。そのなかから3点だけを選ぶのはとてもむずかしい作業でした。選に漏れた作品のうちにも、紙一重の差で、決断に迷ったものがありました。

かわら版ですから、瞬間の輝きで速報性の高い作品を選びたい気持ちもありましたが、生物多様性の観察となれば、やはり時間

2回目となる今年の作品は、さすがに整ってきて粒ぞろいででした。そのなかから3点だけを選ぶのはとてもむずかしい作業でした。選に漏れた作品のうちにも、紙一重の差で、決断に迷ったものがありました。

かわら版ですから、瞬間の輝きで速報性の高い作品を選びたい気持ちもありましたが、生物多様性の観察となれば、やはり時間

2回目となる今年の作品は、さすがに整ってきて粒ぞろいででした。そのなかから3点だけを選ぶのはとてもむずかしい作業でした。選に漏れた作品のうちにも、紙一重の差で、決断に迷ったものがありました。

かわら版ですから、瞬間の輝きで速報性の高い作品を選びたい

気持ちもありましたが、生物多様性の観察となれば、やはり時間

2回目となる今年の作品は、さすがに整ってきて粒ぞろいででした。そのなかから3点だけを選ぶのはとてもむずかしい作業でした。選に漏れた作品のうちにも、紙一重